

Maps of my own future

林 遼一

●はじめに

自分は第4回前高 Oxbridge 研修に参加した者の一人として、これから参加して体験したこと、肌身に感じたことなどを簡単に書いていく。ただ、初めに言っておきたいことがある。**ここに書いていることを絶対にそのままのみにしないでほしい** {理由は後ほどに}。これを読んで、君たちがこの研修に大いに興味を持ってくれると自分としては幸いだ。

●先の見えない不安

高校に入ってしばらくたった夏、自分は将来の進路を悩んでいた。自分は将来医療系の研究者になりたいと思っている。しかし、研究者になるうえで、どのような精神を持つべきなのかが漠然としていたのだ。そんな時に、オックスブリッジ研修の話聞いた。世界最高峰の大学の学生や、研究者の方からその生き様や、勉強、研究に対する思いについてお聞きしたいし、また、個人的にイギリスという国に興味があるということもあって、この研修に参加することを決心した。

●学生との交流

現地では、自分は様々な学生と話をすることができた。ただ、不思議？なことにイギリス人の学生とは会話していない気がするが…。4, 5名もの学生と話したのに。それだけ多くの国から学生が来ているということなのだろう。それぞれの学生と将来の夢などグローバルな会話ができ大変楽しかった。



●現地で活躍する日本人

自分が研修に行った中で最も感動したことは、現地で活躍する日本人2人の講演を聞くことができたことだ。彼らは、大変忙しいにもかかわらず、自分たちのために貴重な時間を割いて、駆けつけてきてくれたのだ。彼らの話していることには、共通点があった。何か自分

が長く続けられそうな目標を設定して、それに向けて頑張ること、楽で安定していてもやりがいを感じられない仕事よりも、困難ばかり起こって大変でもすごくやりがいの感じられる仕事の方が断然いいということだ。また、彼らも高校時代勉強だけを頑張っていたというわけでもなく、自分たちと同じように部活に日々打ち込んでいる普通の学生であったということが、話を聞いて分かった。また、UCLを探検したときに、案内してくれた日本人の学生に入学した動機などの話を聞いてみた。彼らは、日本の教育制度よりもイギリスの方があっていると感じる、自分の興味のある勉強ができるといった理由で留学してきているのだそうだ。

●地図のほんの一部

ここからは研修の感想を書いていく。

まず、カレッジで聞いた2人の日本人研究者の講演は、すごく自分の胸に響いた。というのは、将来の自分がどのような心持ちで研究者になればいいのかを教えてくれているだけでなく、その時の自分が持っていた概念のようなものが大きく破壊されたような気がしたからだ。この言葉を信じてこれから生活していけば、自分の周りの何かが変わるかもしれない。そんな感じだ。また、ホストの留学生や、UCLの学生たちとの会話から、彼らみんなが、自分の物事を知りたいという欲求のままに、イギリスに留学してきているのだということが分かった。ヨーロッパ圏内ならまだしも、人によっては香港など遠い地域からきている留学生もいるのだ。すごい行動力と決断力だ。今の自分にはそれが足りないが、研究者になるには必要な能力だ。自分も彼らを見習いたい。

このようにして、自分は将来へのヒントをつかむことができた。しかし、それだけでは自

分の将来への地図は完成させられない。**常に動き続け、自分自身で経験する**ことが最も重要なのではないだろうか。だから、君たちももっと詳しく知りたいと思ったら、来年この研修に参加することを勧める。ここに書いてあることは、きっと研修の内容の1パーセントにも満たないことしか書いてないだろう。あとは君たちが実際に行ってみて、自らいろいろな経験をして、自身の頭で考えて、自身だけのための将来への地図を完成させてほしい。



▲ハートフォードカレッジにある通路の橋



▲バッキンガム宮殿前